No.01 ワーク / グノーシスシーブイエフ

WORK / GNOSIS CVF

美であれ、5コンケイブ

ホイールに立体感をもたらす技法"コンケイブ"。
この魅力を最大限に引き出すべく、ワークは初心に返った。
つまり、オーソドックスな5スポークに原点回帰してきたのだ。
シンプルなればこその洗練の美を、今こそ履くべき!

source：ワーク https://www.work-wheels.co.jp 048-688-7555、052-777-4152、06-6746-2859
spl thanx：A モーション 055-268-5155
photo：Hirotaka Minai　text：Akio Sato（rsf）

奇をてらわず、あくまでも普遍的正論でホイールと向き合う――。そんな強い意志が感じられる5スポークに、立体的なコンケイブの手法をミックスしたグノーシスCVF。エッジの鋭さは、ワークの技術力の高さとデザイン力の秀逸さを物語る。

スポークの天面と側面にヘアラインを残すのが、ブラッシュドの特徴となる。コンポジットバフブラッシュドでは側面にバフが入り、ヘアラインはスポーク天面のみになるなど、上級モデルならではの細やかなフィニッシュが味わえる。

20インチフルリバースの場合、ミドルコンケイブならスタンダードディスク／ディープディスク／ビッグキャリパー対応の3つのディスクが、ディープコンケイブならばスタンダーディスク／ディープディスクの2ディスクが選択可能。ちなみにこちらは前後ともディープコンケイブのスタンダードディスクだ。

ピアスボルトの美しさも、グノーシスを語るうえで外すことのできぬ重要ポイントの1つだ。スポーク間に各5個を配置し、バルブのある間だけ4個としてデザイン上のバランスを損なわない。バルブの下にはWORKのロゴを誇らしげに刻む。

オーナーの有泉サンは「国産車にはないサイズのワゴンで左ハンドルが選べる、スノボにいける4WD」という理由でE400の4マチックに目をつけた。エアフォースのエアサス、各部のブラックアウト、キャリパーのイエローペイントを加えてスポーティさを演出し、最後のトドメの一撃としてコンケイブが楽しめるグノーシスCVFを装着したそうだ。

WORK / GNOSIS CVF

SIZE：19 FULL REVERSE / 20 FULL REVERSE / 20 STEP RIM / 21 FULL REVERSE / 21 STEP RIM / 22 STEP RIM
H-PCD：5H/100、112、114.3、120
COLOR：COMPOSITE BUFF BRUSHED / BRUSHED / BUFF FINISH / MATTE SILVER / MATTE BLACK
PRICE：¥88,000～¥196,900

A-MOTION × MERCEDES-BENZ E400 4MATIC STATION WAGON

OWNER：AYUMU ARIIZUMI　**BASE CAR**：MERCEDES-BENZ E400 4MATIC STATION WAGON　**WHEELS**：WORK GNOSIS CVF（F&R=20×9J+17）　**TIRES**：NITTO NT555 G2（F&R=235/30-20）
SUSPENSIONS：AIR FORCE SUPER PERFORMANCE　**BRAKE**：CALIPER YELLOW PAINT　**TUNING**：STRAIGHT MUFFLER
EXTERIOR：FRONT GRILLE/FRONT BUMPER UNDER PART/REAR DIFFUSER GLOSS BLACK PAINT , BLACK FILM WRAPPING ROOF

日本のホイール業界にアメリカン鍛造ホイールの流れを呼び込んだ先駆的ホイール、ワーク"グノーシス"が、さらなる飛躍を見せた。それが2023年11月のスタンスネイションお台場の会場にて初披露された"CVF"だ。

すでにご存じのようにグノーシスは、2000年代初期からアメリカで巻き起こっていた削り出し鍛造ホイールのデザインの妙を、ワークの技術力の高さによって鋳造で再現。ホイールの製法やスペックよりも、表情の美しさに魅せられたオーナーたちの熱い支持を獲得。かくしてFMB、GSR、IS、とシリーズは広がりを見せ、今はコンケイブの流儀を取り入れたCVシリーズがグノーシスをリードする位置に立っている。そのCVシリーズだが、これまではスポークに角度を与え、停車時であっても躍動感を想起させるディスクを是としていたが、CVFに至りその方向を転換。コンケイブならではの立体感はそのままに、ホイールの基本とも言える5スポークをディスクに投影してきたのだ。

しかし、そこはワーク。既視感のある平凡なホイールに仕上げるつもりなど、サラサラない。根幹をなすスポークは、太すぎず細すぎず。同時に、高次元のデザインバランスまでも確保。洗練という言葉がこれほど似合うデザインに、そうそうお目にはかかれない。外周にはダミーのピアスボルトを配し、高級感の付与にも怠りナシだ。

19インチ・フルリバース～22インチ・ステップリムの設定からも伺えるように、ミドルクラス以上のラグジュアリーを標的に定めたグノーシス"CVF"。出会った刹那から、心のざわめきが止まらない――。